

九州歴史資料館・分館行事予定 【令和6年10月～令和7年3月】

九州歴史資料館	行事・事業予定	
展示	常設展：12月21日(土)～3月30日(日)「歴史(とき)の宝箱」	
	特別展：10月12日(土)～12月8日(日)「筑紫君一族史」	
	企画展：12月10日(火)～3月16日(日)「遠賀川式土器と弥生文化の広がり」	
	1月22日(水)～3月23日(日)「高良山の仏教美術-山麓寺院調査から見えてくる山の姿-」	
	パネル展：9月10日(火)～12月8日(日)「名誉館長パネル展・シルクロードの文化遺産(1)-オアシスの道-」 12月10日(火)～3月9日(日)「日本遺産登録10周年記念 古代日本の「西の都」・大宰府」 3月11日(火)～3月23日(日) 筑紫地区文化財写真展「推しの文化財(コ)-大集合!若手職員オススメの文化財-」 3月25日(火)～6月 「古賀市船原古墳遺物埋納坑調査の最新線2024～2025」	
古代体験	毎週日曜日に、九歴ボランティアによる古代体験実施中(予約不要、有料・無料有り)	
ミュージアムトーク&バックヤードツアー	毎週日曜日の14時からバックヤードツアー(予約不要 無料)、15時からミュージアムトーク(予約不要 第1・3展示室開催の場合は有料)バックヤードツアー(予約不要 無料)を実施 ※特別展期間はミュージアムトークを実施しません	
講座・イベント	九歴講座：毎月第2土曜日 定員150名 指定席は要事前申し込み 記念講演会：11月3日(日・祝)特別展開催記念講演会「継体天皇と筑紫君磐井」篠川賢氏(成城大学名誉教授) 1月26日(日)企画展開催記念講演会「高良山の歴史(仮)」 穴井綾香氏(久留米市文化財保護課) フォーラム：11月30日(土)古代史研究フォーラム「筑紫君磐井の乱の実像に迫る」柳澤一男氏(宮崎大学名誉教授)他 タベのギャラリートーク：10月25日(金)特別展「筑紫君一族史①」(小嶋 篤) 11月29日(金)特別展「筑紫君一族史②」(酒井芳司) 12月20日(金)企画展「遠賀川式土器と弥生文化の広がり」(宮地聡一郎) 1月31日(金)企画展「高良山の仏教美術」(國生知子)	
	イベント：10月6日(日)綿の摘み取り体験・機織り体験 10月20日(日)特別展記念茶会 10月27日(日)アクロス・ミュージックキャラバン in 九州歴史資料館 11月2日(土)ミュージアムナイト 11月17日(日)文化財めぐり「やめ古墳日和」 11月24日(日)古代体験まつり 1月18日(土)キッズミュージアム「夜のリアル脱出ゲーム&科学実験」 2月16日(日)キッズミュージアム「弓矢体験&スポーツチャンバラ体験」 3月2日(日)ボランティアイベント「Myおひな様・組紐ストラップづくり」	
	発掘調査	県内遺跡発掘調査 10月～3月
	※講座・イベントの詳細情報は、当館ホームページやチラシなどでご確認ください。また、内容・開催期間は変更することがあります。詳しくは当館までお問い合わせください。	
	求菩提資料館	常設展：「求菩提修験道の世界」 企画展：10月19日(土)～12月1日(日)開館50周年秋の特別展「求菩提資料館」 2月1日(土)～3月23日(日)第18回おひなまつり 市民歴史講座：10月19日(土)「求菩提山の仏教美術～平安時代を中心に～」 11月9日(土)「求菩提資料館の50年～その前史と、今～」 史跡ガイド活動：申し込みに応じて豊前市内の史跡をガイドします。
甘木歴史資料館	常設展：第1展示室「朝倉の民俗資料」、第2展示室「朝倉の考古資料」 企画展：12月17日(火)～令和7年2月16日(日)「御利益参詣あさくら路」 1月26日(日)企画展講座「桂そうば 新春甘歴寄席」 パネル展：10月17日(木)～11月10日(日)「朝倉高校史学部パネル展」 10月27日(日)「朝倉高校史学部研究発表会」 イベント：3月30日(日)さくらコンサート	
柳川古文書館	企画展：10月2日(水)～12月1日(日)「田中富美男写真展」 ：12月4日(水)～2月2日(日)「甲冑の美と技-柳河藩士の護りと誇り-」 ：2月6日(木)～3月30日(日)「松井家・立石家のおひな様」 講座：古文書解読講座(初級編・中級編・応用編)毎月1回(第4日曜日) 11月3日(日・祝)「田中富美男写真展」関連講座 12月21日(土)「甲冑の美と技-柳河藩士の護りと誇り-」展開連講演会	

※講座・イベントの詳細情報は、当館ホームページやチラシなどでご確認ください。また、内容・開催期間は変更することがあります。詳しくは当館までお問い合わせください。

求菩提資料館 〒828-0085 豊前市大字島井畑247 TEL・FAX 0979-88-3203	常設展：「求菩提修験道の世界」 企画展：10月19日(土)～12月1日(日)開館50周年秋の特別展「求菩提資料館」 2月1日(土)～3月23日(日)第18回おひなまつり 市民歴史講座：10月19日(土)「求菩提山の仏教美術～平安時代を中心に～」 11月9日(土)「求菩提資料館の50年～その前史と、今～」 史跡ガイド活動：申し込みに応じて豊前市内の史跡をガイドします。
甘木歴史資料館 〒838-0068 朝倉市甘木216-2 TEL・FAX 0946-22-7515	常設展：第1展示室「朝倉の民俗資料」、第2展示室「朝倉の考古資料」 企画展：12月17日(火)～令和7年2月16日(日)「御利益参詣あさくら路」 1月26日(日)企画展講座「桂そうば 新春甘歴寄席」 パネル展：10月17日(木)～11月10日(日)「朝倉高校史学部パネル展」 10月27日(日)「朝倉高校史学部研究発表会」 イベント：3月30日(日)さくらコンサート
柳川古文書館 〒832-0021 柳川市隅町71-2 TEL 0944-72-1037 FAX 0944-72-5559	企画展：10月2日(水)～12月1日(日)「田中富美男写真展」 ：12月4日(水)～2月2日(日)「甲冑の美と技-柳河藩士の護りと誇り-」 ：2月6日(木)～3月30日(日)「松井家・立石家のおひな様」 講座：古文書解読講座(初級編・中級編・応用編)毎月1回(第4日曜日) 11月3日(日・祝)「田中富美男写真展」関連講座 12月21日(土)「甲冑の美と技-柳河藩士の護りと誇り-」展開連講演会

※各館の行事や休館日(閉室)等については、各館ホームページで確認するか、または直接お問い合わせください。

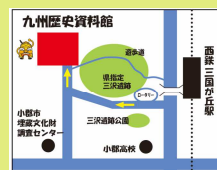
九州歴史資料館
KYUSHU HISTORICAL MUSEUM

〒838-0106 福岡県小郡市三沢5208-3
TEL 0942-75-9575 FAX 0942-75-7834 URL <https://kyureki.jp/>



ホームページ X (旧Twitter) きゅうれきチャンネル

- 公共交通機関
《西鉄電車》天神大牟田線三国が丘駅から約700m
《JR》鹿児島本線原田駅からタクシーで約10分
- 自動車
《九州自動車道》筑紫野I.C.から約15分
《大分自動車道》筑後小郡I.C.から国道500号・県道88号線経由で約15分
《福岡都市高速》水城出口から国道3号線経由で約25分



九歴だより

No.60
2024.10

特別展『筑紫君一族史』

会期：令和6年10月12日(土)～12月8日(日)

会場：第1・2展示室 ※第1展示室のみ有料



岩戸山古墳出土の土器
(九州大学総合研究博物館所蔵)



筑後将士軍談草稿
吉田村岩戸山図
(久留米市教育委員会所蔵)

特別展『筑紫君一族史』は、筑紫君の歴史から日本創成の風景を描く展覧会です。筑紫君の歴史を探る史料は、飛鳥時代～奈良時代にかけて編纂された『古事記』(712年完成)、『日本書紀』(720年完成)を基本文献とし、奈良時代に編纂され「逸文」として部分的に伝来した『筑後国風土記』等があります。国史における筑紫君に関する最初の記事が

527年(筑紫君磐井の乱、勃発)で、最後の記事が690年(大伴部博麻の帰国)であることから、史料上では古墳時代後期～飛鳥時代(6・7世紀)、約200年間が「筑紫君の時代」であったと把握できます。

ただし、国史に記された筑紫君はヤマト王権側の主観を反映した姿であり、記事自体も簡略かつ虚実入り交じった内容です。筑紫君の実像に迫るには、筑紫君自らが築いた古墳や生活残滓となる集落跡等を複合した「遺跡」を読み解く必要があります。

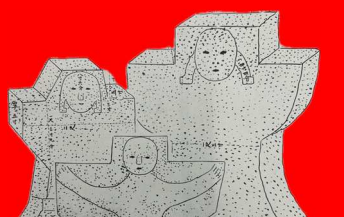
本展では、虚実ある文献史料と物言わぬ考古資料、双方の批判的統合を通じて、筑紫君一族の歴史を読み解いていきます。

古代史研究フォーラム『“筑紫君磐井の乱”の実像に迫る』開催

令和6年11月30日(土) 13:00～16:15 (12:00開場) 会場/アクロス福岡イベントホール

過去3ヶ年間に実践した古代史研究事業「筑紫からみた日本形成史の研究」の種々の調査研究の取り組みを紹介し、その成果を広く公開するためのフォーラムを開催します。

- 基調講演 「筑紫君磐井墓岩戸山古墳の石製表飾と装飾古墳の展開」柳澤一男氏(宮崎大学名誉教授)
- 報告1「筑紫君の古墳と開発」小嶋 篤(九州歴史資料館)
- 報告2「筑紫国造とヤマト王権」酒井芳司(九州歴史資料館)
- トークセッション「“筑紫君磐井の乱”の実像に迫る」
- コーディネーター：中村俊介氏(朝日新聞社)、松川博一(九州歴史資料館)
- 登壇者：柳澤氏・小嶋・酒井・小澤太郎氏(久留米市役所)
- 参加料：無料 定員：600名 申し込み不要



九歴だより 令和六年十月(第六十号)

編集・発行 九州歴史資料館

企画展 高良山の仏教美術

—山麓寺院調査から見えてくる山の姿—

令和7年1月22日(水)～3月23日(日) 第1展示室(近世・近代コーナー)

福岡県久留米市の高良山には、高良神(高良玉垂命)を主祭神として祀る高良大社が鎮座します。筑後国の一ノ宮として崇敬を集めるこの神社は、古くは高良玉垂宮と称し、神宮寺も隆盛して全山に社寺堂塔が築かれました。明治時代の神仏分離を経て、現在の山中に仏教に直接結びつく遺品の多くは残されていません。しかし、山に祀られていた仏像・仏画は、すべてが失われてしまった訳ではありません。

九州歴史資料館は、神仏が習合して栄えた高良山の様相を探るべく、山麓に位置する寺院の文化財調査を進めてきました。結果、神仏分離の際に山を下りたとみられる多くの仏教美術の存在を確認することができました。本展では、これらの作例を紹介しながら、それぞれの元の安置場所を推定し、かつての山の様子を復元的に考えます。あわせて、これらが山を出て、山麓で受け入れられて今日まで守られてきた過程を振り返ります。神仏分離をこえて伝わる高良山の神仏世界を、寺外初公開となる秘仏を含めて御紹介します。



木造十一面観音立像
久留米市・福聚寺



木造慈恵大師坐像
久留米市・国分寺
久留米市・福聚寺

文化財サイエンス・ラボ
Study.17

古代ガラスの煌めき

考古資料としてのガラスは、遺跡から出土する様々な遺物の中でもひと際美しく多様な色彩が特徴の煌びやかな資料です(写真1)。人工宝石として貴重品・希少品であったガラスは、日本には弥生時代の中頃に朝鮮半島を通じて伝わったと考えられています。



写真1(皆見大塚古墳出土ガラス玉)

古代のガラスは川砂などの石英を主原料としており、鉛ケイ酸塩ガラスとアルカリケイ酸塩ガラスの大きく2種類に分けることができます。形状や色調など基本的な情報は肉眼観察や顕微鏡観察で知ることができます(写真2)。一方、ガラスの製造に用いた材料(融材や着色剤など)は観察では知ることができません。これらの判別には化学分析が必要になります。

ガラス製品の一般的な化学分析は蛍光X線分析です。X線の蛍光反応を利用してガラスを構成する元素を特定することができます。写真3は見た目には同じ青色のガラス玉ですが、蛍光X線分析では検出される元素に違いがあり、異なる種類のガラスであることが分かります。(写真3 左:カリガラス 右:ソーダ石灰ガラス)

ガラスの種類や利用傾向は時代や地域により特徴があります。観察と分析を組み合わせることで古代ガラスの製作技術や生産・流通などを明らかにすることができるのです。



写真2(汐井掛遺跡出土ガラス玉)

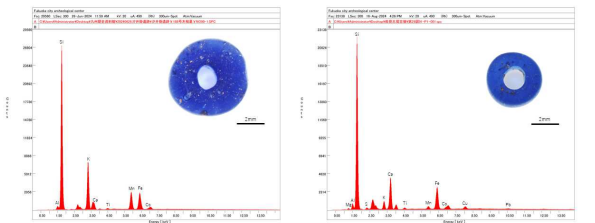


写真3(左:門田遺跡・右:皆見大塚古墳)

その他の企画展・パネル展

企画展「遠賀川式土器と弥生文化の広がり」 会期 12月10日(火)～3月16日(日)

主に福岡県内の遠賀川式土器の実物資料を展示し、弥生文化の広がりについて解説します。

パネル展「名誉館長パネル展・シルクロードの文化遺産(1)」 会期 9月10日(火)～12月8日(日)

かつてユーラシア大陸の東西を結んだシルクロードの道の一つ「オアシスの道」を、名誉館長講座に合わせて、西谷正名誉館長撮影の写真で解説します。

パネル展 日本遺産登録10周年記念「古代日本の「西の都」・大宰府」 会期 12月10日(火)～3月9日(日)

福岡県太宰府市を中心とする地域の歴史を語るストーリー、「古代日本の「西の都」～東アジアとの交流拠点～」が日本遺産に認定されて10年になります。これを記念して、写真パネルで構成文化財を紹介します。

パネル展 筑紫地区文化財写真展「推しの文化財-大集合!若手職員オススメの文化財-

会期 3月11日(火)～3月23日(日)

筑紫地区の5市が一つのテーマに基づいた写真を持ち寄るパネル展です。今年度は「推しの文化財(コ)-大集合!若手職員オススメの文化財-」と題して、各地の若手職員が自信をもって選んだ筑紫地区の特色をよく示す文化財を紹介します。

パネル展「古賀市船原古墳遺物埋納坑調査の最前線 2024-2025」 会期 3月25日(火)～6月

福岡県古賀市の船原古墳では、墳丘に隣接して6世紀後半～7世紀初頭と思われる馬具や武器・武具を納めた埋納坑が発見されました。当館では、出土した遺物を科学機器を駆使して調査を行ってきました。その成果をパネルで紹介いたします。

九歴名品探訪
Vol.17

ちくぜんのかくにぶんけんえす 筑前国分間絵図



現在の福岡県北西部にあたる筑前国一國を描いた絵図です。天保15年(1844)に中津藩奥平家とかかわりがあると考えられる日下田定鷹という人が写したものです。筑前国内の村や浦、街道筋などが描き込まれています。街道が朱線、河川は青線、国郡境は黒線で表現され、国内の村・浦は「○」印、怡土郡西部に所在した中津藩領は「●」印、同じく幕府領・対馬藩領は「△」印で記されます。黒田氏の支藩である秋月藩領は、福岡藩領の表現と区別されていません。

分間絵図とは測量をもとに作られた絵図という意味で、現在の私たちが見ても違和感がないくらいに地形も正確に描かれています。江戸時代末頃の筑前国全体を把握することができる資料として、他の絵図資料と展示替えをしつつ、常設展示の中で御紹介しています。